

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20320070

研究課題名（和文） 言語知識とその獲得・史的变化・運用機構を説明する言語機能モデルの構築

研究課題名（英文） Toward a Model of the Faculty of Language Which Explains L-language, Its Acquisition and Use, and Historical Changes

研究代表者

大津 由紀雄（OTSU YUKIO）

慶應義塾大学・言語文化研究所・教授

研究者番号：80100410

研究成果の概要（和文）：

おとなの言語知識、その獲得と運用、言語間変異、史的变化について詳細に調査し、それらを体系的に説明できる言語機能のモデルについて検討した。その結果、言語機能とインタフェースをもって情報のやりとりを行う語用モジュールと言語処理モジュールを考慮することの受容性が理論的にも実証的にも明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

We explored the nature of the Faculty of Language (FL) from the viewpoints of adult linguistic knowledge, its acquisition and use, linguistic variations, and historical changes, and constructed its model. It has become clear both theoretically and empirically that we need to consider the nature of pragmatic and processing modules as well in constructing such a model.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	7,700,000	2,310,000	10,010,000
2009年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
2010年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	18,100,000	5,430,000	23,530,000

研究分野：英語学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：言語機能、生成文法、ミニマリズム、言語獲得、言語運用、史的变化

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 生成文法研究、とくに、普遍文法研究の深化によって、言語獲得を支える、ヒトに固有な言語機能の性質がかなりの程度、明らかになってきた。本研究開始時には、言語機能の領域固有性を見極めるべく、ミニマリズム（極小主義）の研究プログラムが広く受け入れられ、そのプログラムに沿った理論的・実証的研究が数多く

展開されているという状況にあった。

(2) 他方、言語獲得研究、言語運用研究（とくに、統語解析に関するもの）言語間変異研究、史的变化研究も普遍文法研究の影響を受けながら、それぞれ着実な進展を遂げている状況にあった。

- (3) しかし、これらの諸研究の成果を統合し、言語知識、その獲得と運用、言語間変異、史的变化を説明できる言語機能モデルを構築するという試みはまだ断片的にしか行われていなかった。

## 2 研究の目的

1項で述べた状況に照らし、本研究は、ミニマリズムの研究プログラムと連動させ、最終的には言語知識、その獲得と運用、言語間変異、史的变化を説明できる言語機能モデルを構築するという明確な目標のもとで、言語獲得研究、言語運用研究(とくに、統語解析に関するもの)、言語間変異研究、史的变化研究を展開することを目的としたものである。

## 3 研究の方法

- (1) ミニマリズムの研究プログラムに沿って進められている諸研究の文献調査を行い、研究の現状を正確に把握する。
- (2) 言語獲得研究、言語運用研究(とくに、統語解析に関するもの)、言語間変異研究、史的变化研究についても、同様の作業を行う。
- (3) (1)と(2)の作業結果を突き合わせ、言語知識、その獲得と運用、言語間変異、史的变化を説明できる言語機能モデルを構築するという目標に照らして、現在欠けている点を明確にする。その中には、研究の視点と方法のいずれもが含まれる。
- (4) (3)の結果を踏まえたうえで、言語知識、その獲得と運用(とくに、統語解析)、言語間変異、史的变化に関する研究を統一された問題意識のもとに遂行する。
- (5) 研究代表者と研究分担者は頻りに連絡を取り合い、ブレイン・ストーミングを含めた、徹底した議論を重ねる。
- (6) およそ年間に2度の割合で、研究代表者と研究分担者が会合し、それぞれの研究の進捗状況を報告しあい、最終目標の達成に向けて、その後、どのような作業が必要であるかを検討する。

## 4 研究成果

- (1) 普遍文法の原理に内包されるパラメータと言語獲得、史的变化に関する理論的・実証的研究についての現状を整理した。とくに、言語獲得及び史的变化におけるパラメータの関与の仕方について重点的に検討した。この検討は逆に「可能なパ

ラメータ」の概念を規定する上でも有効であった。

- (2) ミニマリスト・プログラムに基づく言語機能の解明研究で中核的問題となる、言語機能と認知体系のインターフェイスにおける相互作用について、syntax-phonology interface、syntax-semantics/pragmatics interface および processing system の各様相にかかわる現象として削除現象および文断片をとりあげ、言語間変異と普遍特性について明らかにした。
- (3) 生得的言語機能の中に存在すると仮定される「言語間変異を司る制約」に関し、言語獲得の観点から、その所在と具体的な性質に関して検討を行った。言語現象として、(i) 英語・スペイン語における「断片的な答え」、(ii) 日本語における階層構造、(iii) 日本語における項削除とその制約の3つに焦点を当てて研究を実施し、言語獲得に関する新たな事実を発掘するとともに、「言語間変異を司る生得的制約」への理論的含意を明らかにした。
- (4) Sluicing, VP Ellipsis, Null Complement Anaphora, DP-internal Ellipsis、Gapping 等 音形を欠く現象に関して、残存要素の形態統語特性や無形部分が担う意味特性にみられる言語間変異を明らかにし、統語構造と意味の対応の問題を検討した。
- (5) 3-6 歳児の束縛現象、移動現象などに関連する知識を調査するための実験を行った。従来の実験方法の改良にも力を注いだ。結果として、これらの子どもの言語知識が質的におとなの言語知識と異なることを確認した。
- (6) 言語の異なり方を定めた生得的制約(「パラメータ」)の存在に関して、日本語・英語・スペイン語の獲得過程からの新たな証拠を提示した。具体的現象としては、日本語における格助詞交替・日本語における項削除・英語における内包的他動詞(want と need)、英語およびスペイン語における wh 疑問文に対する答えなどの獲得過程を取り上げ、実験調査及び自然発話分析を通して、その獲得過程を詳細に分析した。
- (7) 日本語を母語とする幼児の、かきまぜの理解と韻律情報の利用の関連を調査する

実験を行った。予備実験後、実験結果を分析し、言語材料、提示順、提示方法を再検討し、本実験を実施した。その結果、幼児は韻律情報を利用し、正しくかきまぜ文を理解できることが明らかになった

- (8) ミニマリズムの視点が言語獲得および言語変化に関する研究にどのような影響を与えるのかについて検討した。
- (9) 生成文法と認知言語学について、とくに、言語獲得の視点から、その研究姿勢の違いについて検討した。一般にこの両者は対立する言語理論のように受け止められているが、実質的な研究成果の部分では互いに利用可能な、有益な部分が多いことを確認した。
- (10) 上記のように、本研究は、ミニマリズムの研究プログラムと連動させ、最終的には言語知識、その獲得と運用、言語間変異、史的变化を説明できる言語機能モデルを構築するという明確な目標を持って開始したものであるが、その目標が有意義であることが明確となった。ことに、獲得と運用、言語間変異との関連については、これらに直接かかわるモジュールについての研究成果を活用して研究を進めることが不可欠であることが明らかとなった。
- (11) 英文誌 *Poetica* 編集部からの依頼を受け、その 13 号を言語理論と言語獲得とし、大津と今西がその編集にあたった。この特集号には研究代表者と研究分担者の全員が論文を執筆し、それまでの研究成果の一端を発表した。
- (12) 研究成果の一端をできるだけ広く活用してもらおうことを意図して、『はじめて学ぶ言語学』と『ことばの力を育む』の 2 冊を刊行した。前者は大津が編集したもので、研究代表者と研究分担者の全員が章の執筆を分担している。後者は大津が窪園晴夫（神戸大学教授・当時、国立国語研究所教授）と共に著した。
- (13) なお、当初、主として史的变化について担当の研究分担者となっていた天野政千代（名古屋大学教授・当時）が 2008 年 6 月に急逝するという事態を受け、急遽、大津と今西が史的变化について対応する体制をとった。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕(計 15 件)

- (1) Sugisaki, Koji and William Snyder. Fragments in Child English and Spanish. *The Proceedings of the Eleventh Tokyo Conference on Psycholinguistics*. 2010. 253-268. 査読有
- (2) 大津由紀雄 "Metalinguistic Awareness in TEFL: Preliminary Notes(2)" 言語文化研究所紀要 41 号. 165-174 (2010). 査読有
- (3) Otsu, Yukio, Noriko Imanishi. "Current Issues in Generative Grammar and Language Acquisition" *Poetica* 70. 1-111 (2009). 査読有
- (4) Isobe, Miwa, William Snyder: "Child Language Acquisition as a Source of Evidence for Parameters" *Poetica* 70. 1-20 (2009). 査読有
- (5) Sugisaki, Koji. "Evaluating Syntactic Analyses with Children" *Poetica* 70. 22-38 (2009). 査読有
- (6) Sugisaki, Koji. "Nominative Genitive Conversion and its Transitivity Restriction in Child Japanese" *The Proceedings of Generative Approaches to Language Acquisition North America*. 262-269 (2009). 査読有
- (7) Sugisaki, Koji. "Argument Ellipsis in Child Japanese: A Preliminary Report" *The Proceedings of the Tenth Tokyo Conference on Psycholinguistics* 10. 291-312 (2009). 査読有
- (8) 今西典子. "発音されない構造に潜む不思議" 言語 38 巻. 6-7 (2009). 査読無
- (9) 今西典子. "音形を欠く主要部名詞をもつ名詞句表現について" 語研ジャーナル 8 巻. 79-86 (2009). 査読無

〔学会発表〕(計 15 件)

- (1) Otsu, Yukio. Acquisition of Quantifier Float in Japanese. Beijing Language and Culture University Symposium on Language Acquisition. 2011 年 4 月 10 日 北京語言大学

- (2) Otsu, Yukio. Metalinguistic Development Concerning Syntactic Categories: Using *Shiritori* Wordplay as a Tool. Future Trends in the Biology of Language. 2011年3月10日. 慶應義塾大学
- (3) Sugisaki, Koji. A Constraint on Argument Ellipsis in Child Japanese. Konkuk University Linguistic Colloquium. 2011年2月12日 建国大学(韓国)
- (4) Otsu, Yukio Acquisition of Wh-scope in Japanese. Workshop on Acquisition of scope and phrase structure: comparative perspective. 2010年12月23日 香港中文大学
- (5) Sugisaki, Koji. Argument Ellipsis and Wh-questions in Child Japanese. Workshop on Acquisition of scope and phrase structure: comparative perspective. 2010年12月23日 香港中文大学
- (6) Sugisaki, Koji. The Distinction between Case Markers and Postpositions in Early Child Japanese: New Evidence for Children's Grammatical Conservatism. 2010年11月5日 Boston University.
- (7) Sugisaki, Koji. Configurational Structure in Child Japanese: New Evidence. Generative Approaches to Language Acquisition North America 4.

2010年9月1日 University of Toronto.

- (8) Sugisaki, Koji and William Snyder. Children's Grammatical Conservatism: New Evidence. GLOW in Asia VIII. 2010年8月13日 北京語言大学
- (9) 大津由紀雄. "ことばについて気づくこと、意識すること" 第12回明海大学応用言語学セミナー. (2009年12月13日). 明海大学
- (10) Sugisaki, Koji. "Children's Knowledge of the Structural Difference between Relative Clauses and Wh-Questions in Japanese" Sixth Workshop on Altaic Formal Linguistics. (2009年9月5日). 名古屋大学

〔図書〕(計2件)

- (1) 大津由紀雄、今西典子、杉崎鉦司、磯部美和, ほか 『はじめて学ぶ言語学』 ミネルヴァ書房. 341 (2009)
- (2) 大津由紀雄・窪園晴夫. 『ことばの力を育む』 慶應義塾大学出版会. 195 (2008)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.otsu.icl.keio.ac.jp/>

<http://oyukio.blogspot.com/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大津 由紀雄 (OTSU YUKIO)

慶應義塾大学・言語文化研究所・教授

研究者番号：80100410

### (2) 研究分担者

今西 典子 (IMANISHI NORIKO)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：70111739

杉崎 鋳司 (SUGIZAKI KOJI)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号：60362331

磯部 美和 (ISOBE MIWA)

東京藝術大学・言語音声トレーニングセ

ンター・助教

研究者番号：00449018

天野 政千代 (AMANO MASACHIYO)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：80116524

(H20：辞退)